

# 大学教育再生加速プログラム取り組み

## テーマ I アクティブ・ラーニング

立正大学地球環境科学部におけるアクティブ・ラーニングとは？

**C**  
プロジェクト

**学生主体の  
フィールド  
ワーク実習**

- ワークショップを採用した授業
- 地域連携型フィールドワーク
- 現地調査でのタブレットの利用
- 学年・学科・セミナー（ゼミ）の垣根を超えた「AP学生研究プロジェクト」の実施



### 取組目標

#### フィールドワーク・実験・実習科目における アクティブ・ラーニングの実践と手法

フィールドワーク・実験・実習科目においても新しい教育手法を取り入れて、知識を活用する場でも主体的に活用できる学生を育成することを目標とする。

講義で  
体験できないことを  
自分で考えて、  
実際に  
フィールドワークで  
体験できるよ。



### 取組内容

学生ならではの発想力  
と行動力を育み、仲間と  
協力して、問題解決に  
挑み、広く成果を発信

#### 教員主体 見学・体験・技術修得型



転換

#### 学生主体 問題解決型へ

宝石サンゴ調査船での  
フィールドワーク風景  
（小笠原海域）

熊谷駅での学生主体  
フィールドワーク風景



深海の宝箱-宝石サンゴ展示会のポスター  
（展示会場：小笠原諸島島島）



学生主体で作成された  
「めめまの観光案内図」

## 主な学生主体の地域連携・問題解決型プロジェクト

- 道の駅めめまプロジェクト  
観光案内図の作製を通して、地域連携および観光街づくりに貢献
- 小笠原諸島における宝石サンゴの調査および展示会  
外国漁船による宝石サンゴ密漁の被害調査および報告に貢献
- 「秩父鉄道女性社員オススメ秩父鉄道沿線のお店&スポット」(観光マップ)の作製  
女性の目線を活用した地域の観光振興や公共交通の利用促進に貢献
- 「森林公園おでかけガイド」の作製  
利用者の目線に立って、地域の公共交通情報を総合的に掲載し、持続可能なまちづくりに貢献
- 日光市栗山地区ダムツアー企画プロジェクト  
ダムの立地や周辺の自然環境に関する解説マップづくりを通して、栗山地域の魅力発信に貢献

## AP学生研究プロジェクト

平成27年度:2件採択

- 「水稲と麦の二毛作地域における生物多様性の特徴」  
木村真夏（環境システム学科2年）他2名
- 「地図を用いた移動の際に人が参考にする地理情報について」  
中島健太（地理学科3年）他3名

平成28年度:3件採択

- 「埼玉県に生息するヤリタナゴの地域固有性は保たれているのか？」-宮大輝（環境システム学科3年）他4名
- 「観光資源に対する地元住民と観光客との評価の差異-山形県を事例として-」飯山和也（地理学科3年）他4名
- 「人が植物の分布拡大に与える影響」  
長谷川樹生（地理学科3年）他1名

### 今後の課題

- AP学生研究プロジェクトの全学波及

順調！  
僕得意かも！

